



中高生とともに差別と闘う

「ここに残りたい」

吉成タダシ (うずしおランチ代表)



聴く者の胸をまっすぐに貫くよ
うな、前号「ミナコの本音」の続き
です。

*

「父さんは今年、遠くの職場に変わって、その近くで一人で住んで。代わりにお婿さんに行つてた父さんのお兄さんが、おばさんが亡くなったから帰ってきてくれることになって。」

父さんに内緒で、この前、母さんに会った時におばさんが亡くなったことを言ったら、母さんが、「父さんがいないのならこつちにおいで」って。『お祖母ちゃんが心配だから』って言ったら、『おじさんも戻つて来てくれるし、いとこだっているから、こつちに来て何も問題ないじゃない』って言われて……。でも、私はここでいるって決めたし。そう言われるのがすこつらくって……

今まで友達にも話さなかったし、親にも自分の気持ちなんて言わなかった。何にも口に出さなくて……ただいつも泣くばかりで……。でもこつちに来てみんなが聞いてくれるから、それはとつてもうれしくて……ありがとうございました。

リーダーと言われながらも、どこか人間関係が不器用だったミナコ。自分で殻をつくり、近づくものを寄せつけず、その殻を破りたいのに勇気が出せず、ずっと一人で抱え込み悩んでいたのです。それでも、二年間の人権学習の蓄積が、「この仲間なら言える」という思いにさせたの

だと思えます。

ここに残りたい

ミナコに続いて、司会をしていた

アキヒサが言葉を重ねました。「チャイム鳴ったけど、もうちょっとだけ。オレも何か今の気持ちすこく分かって……」

昨日入ってきたばかりの話なんだけど、親父が今の会社から大阪に単身赴任になる話があつて。親父から一対一で、オレらが大阪に行くか、ここにいろかと。親は、親父が一人で大阪に行つたら生活費がかかるから、みんな大阪に行こうみたいな感じの方向に進んで。親父が一人で大阪でいるっていうのもちよつと心配なところあるし。昨日聞いたばかりだから、すこく今悩んでるんだけど……

今の話聞いて、同じ気持ちみたいな感じで共感したっていうか、……何て言うんだろ。今まで家族と離れたことなかったし、思ったのは、すこく寂しいなって。今も悩んでるんだけど、転勤するなら五月の中旬に行くっていう急な話で。オレは今さら大阪行くのも嫌だし、ここに思い入れもあるから、ミナコちゃんみたいここに残りたいんだけど、親父の心配もあるし、すこく悩んでる……」

二人の予想外の展開に、その場にいたみんなは、共に学ぶこの地、みんなにとっての故郷を、強く意識することになりました。家族への思いとともに、しがみついてもこの地

で、みんなと共に卒業の最後まで過ごしたいという思いを強くしたように思っています。

打てば響く

マイクはすぐ後、バスケットボール部員の手には、バトンのように渡っていきました。

*

「ミナコはいつもキャプテンとしてみんなを引っ張ってくれて、すこく頼りになってた。」

小学校六年生の時もずっと保健室でいて、バスケットも来なくて。その時は副キャプテンだったナツミもいろいろ苦労したと思うけど、みんなミナコのが好きだから。ちゃんと支えていくから。

中学校になってからミナコは自分の意見ばかり言つて、人の話を聞かないこともあつたけど、家でもいらないこととか言つてくれたら、私もいつぱい返すから。反対にミナコに聞いてもらおう時もあると思うし。

ミナコはキャプテンだからとか思つて堅くならなくていい。みんな一緒なんだから。これからもみんな仲良く頑張つていこうよ」

*

「ミナコはいつもキャプテンとしてみんなをまとめてくれて。」

今日ミナコの本音を聞けたけど、今までは全然そういう話も聞いたこととかなくて。自分の中に閉じこめてしまつてたけど、もつと私らにも悩み事とか話してほしい」

*

「小学校の時、ミナコ、最初の方がスケなかなか来なかったじゃない。そのときは正直、なんで来ないのか思つてた。そんなつらい理由とか分からなかったし。だからミナコにつらく当たつたこともあつたかもしれない。けどつらいことがあつたら、言つてほしい。これからは何かつらいこととかあつたら、みんないっばいいるから、言つてほしい」

*

「ミナコはね、強いじゃない。だから悩んでるとかいうことなんて分かんなかった。ミナコは頑張りすぎ。もつと私ら頼つていいよ。話だつたら電話でもいいし、そのままでもいいし、いつでも聞くから、いっばい話してよ」

*

部の仲間が言葉を返している間中、はばかりことなくずっと泣き伏していたミナコ。

なんで……どうして……

私の頭の中になんかぐぐるぐぐる回っていました。これが、子どもが悩むことだろうか。子どもに責任のないところで、一人で背負い込んで苦しんで、それを吐き出せる場もなく。確かに生きていけば、人生の岐路は思いがけず巡ってくるもので。それは自分で消化するしかないのかもしれない。それはそうなのですが、それにしても……と、割り切れない思いにならずにはいられませんでした。